

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190400121		
法人名	株式会社ビジュアルビジョン		
事業所名	けあビジョンホーム境港		
所在地	鳥取県境港市外江町2225-1		
自己評価作成日	令和2年11月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3190400121-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和2年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社訓「明るく 元気に 誠実に」です。利用者様に1日に1回は笑って頂ける様、一緒に何かをするという事を心掛けております。食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換などして頂く時間がありますが一緒に行う。役割を持って頂き、職員は感謝の気持ちをお伝えしております。職員が笑顔でいれば利用者様からも笑顔が見られます。一緒に笑って過ごせるホーム作りを進めております。生活の中の楽しみの一つでもある食事は野菜切りをして頂いたり、盛り付けをして頂いたり利用者様が中心となり炊事をされています。お誕生日の時には希望を伺いメニューを作り、お祝いさせて頂いております。体調不良の時には看護師、医療機関、ご家族様と連携をとり、速やかな対応に心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が理念を踏まえた目標を立て、振り返りをされています。これから継続して行って頂きたい取り組みです。
生活の中の楽しみの一つである食事はホームで作っておられ、季節の食材やホームの畑で収穫された野菜が使用されています。利用者と一緒におやつ作りもされ、誕生日メニュー、敬老会・クリスマス会等のお楽しみも用意されています。
利用者一人ひとりの役割分担も持って頂き、利用者一人ひとり人としての尊厳を大切にされています。
職員も明るく、利用者の方も表情豊かに穏やか日々を送られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念と基本動作10ヶ条を全職員に配布し、朝礼、夕礼時に唱和し、共通認識できるようにしている。	全職員に経営理念と基本動作10ヶ条を配布され、唱和する事で、周知されています。全職員が理念を基に自らの目標を立て3ヶ月毎に振り返りが行なわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に地域のボランティアさんに来所頂いています。日常的な交流は、野菜を持って来てくださる方がおられたり、また違う方も停電時に情報交換が行えた。	コロナ禍でも、感染対策を講じながら、屋外の駐車場を使い、踊りを披露して下さるボランティアの方のとの交流が継続されました。また、近所の方より野菜を頂かれたり、緊急時の情報提供もして頂ける関係作りが出来てきました。	自治会には加入されていないので地域の活動に参加するきっかけ作りとして検討されても良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域の方、ご家族様に参加して頂き、認知症についてや地域でのグループホームの取り組みを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度コロナウイルス感染防止のため文書にて報告を行っています。ご意見をお電話やお手紙で頂きサービスの向上、改善に努めております。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されています。コロナ対策の為文書での開催となっておりますが、顔を見ない状態でも、参加メンバーよりお電話やお手紙で、ご意見を頂き、ホーム内で検討し支援に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査や推進委員会の時の連絡、入退居時の報告や書類、空き地についての相談を行っている。その他困った事などを積極的に相談し、市の研修にも参加し、協力関係の構築に取り組んでいる。	介護保険関連やホームの困り事等、常に相談があれば境港市の長寿社会課に相談されています。市の研修等がある時には参加され、協力体制が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての話し合いを2ヶ月に1回行い、ケア向上に努めている。	身体拘束防止委員会は、運営推進会議に併せ開催され、身体拘束の事例検討はユニット毎でも検討されています。スピーチロックやセンサーマットの使用について等も話し合われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を用いての研修を2ヶ月に1回実施し、意識付けに努めている。対応に苦慮するケースについてはカンファを開き対応協議をし、ケアの統一に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行うことで全員が理解して活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項の説明を行い、理解と同意を得て署名押印を頂いている。質問や不安に対しては納得して頂ける様説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、来所時にお声掛けし話しやすい環境作りに努めている。運営推進会議にご協力頂きご意見を反映させている。	意見箱も設置されており、意見、要望が言いやすい、職員へも話しやすい環境整備に取り組まれています。家族の方には面会時やプラン変更時に確認されます。また、月に1回お便りを送付し、利用者の近況を報告し、その後、意見、要望の把握に努められています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会、又は相談事項が生じた時は適宜フロア会議を行い、また連絡ノートを活用する事で意見や提案を聞く機会を設けている、	毎月の職員会やフロア会議の際に、利用者一人ひとりの対応を話し合わせ、職員間で共有しておきたいことについては連絡ノートを活用されています。管理者も、職員よりの提案や意見を積極的に引き出せるよう心掛けておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度夢会議を行い、短期的な夢、中期的な夢、長期的な夢と小さな夢から大きな夢、個人的な夢、会社全体の夢をすい上げ、次年度の経営計画に盛り込まれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社員一人一人には目標管理シートがあり目標、手段を記入し実施し、3ヶ月毎に振り返り自己、上長にて評価している。年に1、2回組織全体の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に交流できている。組織内にある複数のグループホーム間ではzoom会議にて交流する機会があり、サービスの質の向上につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中よりご本人の不安や心配事を察し変化の早期発見に努め、ご本人の安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を行い、関係づくりに努めている。居室担当制を設け安心して相談して頂ける様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は、ご家族様よりお話を伺い、ご本人との面談、場合によっては入居先、利用先の職員からの情報により必要な支援を見極め、サービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、食器拭き、食事の下準備等を一緒にを行い、して頂いた時には感謝の気持ちを伝えて関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告を送付しています。また、変化があった時にこまめに連絡相談報告を行い、関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族親戚などの面会や外出の支援に努めている。コロナウィルス感染防止のため面会場所や時間など条件付きで面会をして頂いている。	コロナ禍の為、現在は2階の会議室を利用して、短時間家族等との面会をお願いされています。外出の機会や人と会う機会も減少しています。気分転換のドライブがてら、自宅周辺にを回ったりと工夫されています。	昔の話をするきっかけ作りとして、年末には年賀状作りも良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の関係性を把握し、テーブル席の位置に配慮している。職員が間に入り交流できる環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後ご家族様から相談があり、支援が行えたケースがある。今後も相談や支援を行う体制がとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、訴え時にお話を傾聴する事により希望や意向の把握に努めている。	職員と利用者の信頼関係を築くことにより、利用者が話しやすい環境作りをされています。職員は日々の会話や表情の中から利用者の方の希望、移行を汲み取るよう努力されています。困難な方の場合アセスメントや家族からの情報提供を基に検討しておられます。	利用者の方の生きがいや生きる目標につながる様に気を付けて把握されると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報、ご本人との面談、会話の中から把握し、アセスメントシートを作成、回覧する事で職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活の様子を記録に書きとめ、現状把握し、連絡ノートや朝、夕礼時に申し送りをして職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者、フロアリーダーを中心にケアのあり方を検討、必要時には家人様、主治医へ報告相談を行い介護計画を作成している。	居室担当、フロアリーダーを中心にモニタリングを行い支援方法を検討されます。必要時には家族、主治医とも連携、相談を行い介護計画は作成されます。モニタリング、評価・見直しは3ヶ月に1回実施されています。	利用者に対して職員がどこまで手助けするかの職員間での共有化が重要です。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、見直し事項がある時はカンファレンスを開き、対応策を検討し、情報共有し、統一したケアに繋げる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化に取り組みを柔軟に行っている。骨折入院された方が退院後の様子、ご家族様の希望もありリハビリ目的の入院をされ筋力ついた状態で退院され現在独歩に近い状態に至る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人との会話の中から昔なじみの場所にドライブレクを行いました。地域で活動されているボランティアさんがコロナ禍であることを考慮して下さり外での日舞のお披露目に定期的に来て下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様からの希望時、または状態によって必要時にはご家族様に報告相談を行いこれまでのかかりつけ医への受診、又は協力医の往診の支援を行っている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっています。協力医以外の従来からのかかりつけ医も往診して頂いています。他科受診は原則家族受診ですが、職員対応時には家族に報告が行なわれます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職で気付いた事は看護師に報告し、ご家族様、医療機関に相談し、状態報告し必要な時には往診、受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し入院先に提出し、退院時には退院前カンファレンスを行い、ご本人状態確認をさせて頂き、情報を頂き、ご本人、ご家族様のご意向を伺い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合に関わる指針及び看取りに関しての同意書を頂いている。ターミナル期がきた場合はご家族様、主治医、看護師、ケアマネ、管理者で話し合いの場をもちご本人様の意向に沿えるように支援している。	利用開始時に重度化した場合に関わる指針の説明を行い、看取りに関しての同意書を頂いております。重度化された場合には再度確認されます。看取りの場合は家族、主治医、職員、管理者で話し合い最善方法で看取りが行なわれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは作成しているが、適宜見直ししながら確認を行っていき、実践時に活用できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消火訓練、避難訓練を実施している。実施内容を確認、反省点は改善につなげる。非常用食料、飲料水を準備している。	年2回防災訓練(避難訓練、消火訓練)が行なわれています。内1回は消防署の立合いの基実施され、消防署のご意見を伺い今後活かされています。備蓄に関しても、食料、水は確保されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し対応している。プライバシーを損ねない言葉かけを行い一人一人を尊重している。	利用者の尊厳守った支援を心掛けておられ、接遇研修も行われています。入浴・排泄の場面ではプライバシーに配慮されています。日頃から言葉遣いには気を付けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴準備の際洋服を選んで頂いたり、何か作業をお願いする時して頂けるか伺いをたててから良ければして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様との関りを第一に考え、その他の業務はあいている時間にしよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃毎朝の整髪はして頂ける様支援している。ご本人の希望時に業者に来て頂き散髪して頂いている。行事や外出時は一緒に洋服を選びお洒落をして頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から好みをきき、メニューに取り入れたり、一緒に準備や片付けを行っている。できる事を分担し、皆が役割がもてるよう配慮している。	可能な方には一緒に準備や片付けをお願いしておられます。法人本部の栄養士のメニューを基に、地域性やホームの畑で収穫できた野菜も使い、利用者のリクエストも取り入れホームで調理されています。誕生会・敬老会・クリスマス会などの行事食もあり、それぞれが食事を楽しめる工夫をされています。食材選びも一緒にされたり、おやつ作りもされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分・水分量の制限のある方、刻み食の方と個々にあった支援をしている。1年通して1日1500cc水分摂って頂ける様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きをご本人でして頂き、磨き足りない所は支援している。舌の汚れがある時は職員間で情報共有し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、場合によっては時間をみて職員からの声掛けで排泄介助を行っている。断られた時は無理強いをせず、時間をおいて声掛けをし自立に向けた支援を行っている。	自立、尿意のある方の場合は見守りを行い、尿意のない方に対しては、排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、腹部マッサージ、歩行など個々にあった予防ケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に入浴希望の有無を確認し、浴槽内でゆっくりされる方、サッと入られる方、シャワーだけを希望される方と個々にそった支援をしている。	週に2～3回個浴で一人ひとりの希望に沿った方法で入浴を楽しんで頂いております。入所当初に入浴拒否をされていた方もありましたタイミングや職員を変える等し今は入浴を楽しんでおられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や電気の明暗度や衣類、掛物に配慮している。また、日中様子観察行い臥床を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容変更時には情報共有し把握している。薬内容は職員がいつでも見られるところに置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事を見つけ、作業して頂いていて、して頂いたことに感謝の気持ちを伝える事で存在意義を感じて頂ける様支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出外食を控えていたが、9月頃より天気の良い時は散歩、ドライブに出掛けられるように支援している。ご家族様がドライブに連れ出されたり協力して頂いている。	家族の方にはコロナ禍で行事に参加して頂ける機会がない事が残念ですが、利用者の方には出来るだけ外気を感じていただける機会を持てるように、ドライブに出かけるなどの工夫が行なわれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理は事務所金庫でさせて頂いているが、外出レクの時など買い物できる機会がある時にはご本人でお支払いして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族様より電話の希望があれば職員が介助を実施している。敬老会ではご家族様にお手紙をお願いして書いて頂き、面会以外での交流ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間でリラックスして頂けるようソファを2つ使用しくつろげる場所でそれぞれ過ごして頂いている。光具合によってはカーテンを開閉し調整している。庭の花を見て頂いたり季節を感じて頂ける様配慮している。	温度調整、換気、調光にも気を付けておられます。一人ひとりの利用者の方ゆったりくつろげるようソファも2つ配置されています。季節に合わせた飾り付けも行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の関係性を考慮してテーブル席にご案内している。居室だったり、ソファ、テーブル席と思いいで過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団などを使用して頂いている。状態を考慮した居室内配置をしている。仏壇や位牌を持ち込まれている方もいる。	ベットの位置もそれぞれの方に合わせて配置されたり、馴染みのある好きな物を自宅から持ち込んで頂き過ごし易い環境整備が行なわれています。写真や自分の作った作品を飾っておられる方もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行の方が安全に歩ける様常に床が濡れてない状態を保っている。居室に張り紙をする事で自立して生活できるよう工夫している。		